

# 埼玉退教

2021年度 第2号 発行者  
発行日 2021年12月22日 編集責任者 長沼 清英  
発行元 〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1 衛生会館 2F  
☎ 048-823-4071 FAX 048-823-4072  
Email donpo0958@gmail.com

体験者のつぶやき・・・「戦争はしたらいかん！」

## 副会長 石川 博

今年の日米開戦から80周年に当たり、テレビ番組でも関連したものが取り上げられました。真珠湾攻撃では航空攻撃と併用して特殊潜航艇(2人乗り5隻)での攻撃も行われ、戦死した9名は「軍神」として祀られたとのことです。乗組員の酒巻和男さん(1918~1999年)は対米戦争での最初の日本人捕虜となりました。番組では酒巻さんにスポットを当て、残された遺品や遺族へのインタビューから戦争の実態や酒巻さんの生涯を紹介しています。

「感染症にれた日本軍兵士」という番組もありました。ここ数年、新型コロナウイルス感染症が世界中に拡散しています。太平洋戦争で亡くなった日本軍兵士は6割が餓死・戦病死だったとのことです。破傷風、天然痘、デング熱、ペスト、マラリア、チフスなどの感染症予防のためシンガポールに「南方軍防疫給水部」の本部が置かれていました(関東軍の「満州731部隊」が知られている)。マラリア対策では特效薬(キニーネ)を独占し、ヒトだけに感染するデング熱対策では人体実験(精神科病院)も実施されました。

埼玉退教は5年前に、敗戦70年誌「語り継ごう 戦時・戦後体験」を発行しました。私の報告は、近所の寺の境内にある石碑「殉國慰霊」の個別記録(40名)でした。亡くなった時の年齢は20代前半(18名)、20代後半(9名)、30代前半(7名)、30代後半(5名)、鹿児島出身の航空兵(鶴ヶ島上空、19歳)です。また、死亡時期は1937(S12).10~1946.4の間で、1944.6月以降が32名と圧倒的に多いことが分かりました(1名はシベリヤ出兵)。なお、陸軍(31名)・海軍(9名)、戦死(26名)・戦病死(14名)とされています。

20世紀は「映像の世紀」とも言われ、文字に加えて写真や映画による記録が可能になりました。戦場では戦車や飛行機などの新兵器が登場し、生々しい戦争の実態を知ることができます。今回の放送ではさらにこれをカラー化しています。番組「空の証言者」もその一つです。空襲では軍人でない膨大な数の「一般人」も亡くなりました。

番組の中での体験者のつぶやき「戦争はしたらいかん！」を重く受け止めたい・・・

# 諸 活 動 報 告

## 第 3 2 回 埼 玉 教 育 研 究 集 報 告

児玉支部 丸山道雄

はじめに

10月24日、嵐山町の国立女性教育会館で、第32回埼玉教育研究集会が開催されました。コロナ下ですが、レポート参加しました。事務局より、原稿依頼がありましたので、報告します。

全体会はなく、午後からの分科会「教科書問題」に参加しました。参加者は6人でした。児玉支部から3人が参加。レポートが3、児玉支部から2でした。

- ① 「このまちの養蚕文化を50年先に！」  
教組児玉支部
- ② 「漢字や言葉」を楽しく学ぶための、国語学習の実践報告 教組川口支部

→ 地元・市教委発行の副読本（3年生用）の編集委員として、養蚕業にかかわる貴重な資料を掘り起し、筆者ならではの物語りが、登場人物のユニークさとレポートに掲載された写真やカットで読みやすく、聞きやすい報告でした。郷土の歴史を十二分に楽しむことが出来ました。

→ 「漢字や言葉」を楽しく学ぶため、自分で考案したクイズ形式の教材で、授業展開をした実践報告。こんな授業だったら楽しく学べます。納得！

- ③ 「新たな教科書攻撃をはねかえすために」  
(A4で9枚の比較的長文)  
＜ 付属資料も10頁 ＞ 埼玉退教児玉支部  
∴ 現役とともに存分に質疑討論し、紅葉の「嵐山」を後にしました。

以下、私のレポートの報告をします。

小中高の社会科教科書への国家権力（政府・文科省）の政治介入に、警鐘乱打します。テーマは「新たな教科書攻撃をはねかえすために」です。

(1) 9月9日の朝日（毎日）新聞記事に目が止まりました。教科書検定済の社会科教科書の記述を変更させられたという記事です。やり玉に挙げたのは、山川出版社です。多分、初めての検定ということで、社の編集スタッフも気合を入れて慎重に仕上げ、検定に合格させたのに、「従軍慰安婦」の記述を削除されたというニュースでした。

(2) 早速、これまでの経緯を資料にあたり、整理してみました。

① 「つくる会」（藤岡信勝副理事長）らが積極的に政府・文科省に質問主意書を国会に提出し、質疑をくりかえし削除を求めているのです。12月、1月、3月と文科省に。これと自民党（有村参院議員）や日本維新（馬場幹事長）、『日本会議』系が、削除の政府見解を出させたのです。

② 文科省（萩生田）が、これを受け、全教科書会社の編集担当に説明会を開催し、政府見解を“紹介”して削除を促したのです。手続きが遅れた場合には、訂正の勧告もあると圧力をかけたのです。教育委員会が採択（権）を握るため、採択減を恐れた全社が削除に応じたのです。折角たかいたった“記述”でしたが、ふたたび削除させられたのです。

なんと、大手の駿台予備校にも自民党議員がネットでの書き込みを口実におどしつけたのです。因みに、予備校（私塾）は、教科書検定に制約されません。まさに、ファシズム的な兆候です。県北の伝統校の校長にも従軍慰安婦の記述ある教

科書は採択をするべきでない旨の脅し電話が入っていることも明らかにされた。

- (3) 日本会議（議連）や「つくる会」メンバーらの削除理由を整理すると、
- ① 強制連行の証拠は見つからない。→そもそもないと決めつけている！
  - ② 従軍慰安婦は存在しない。→造語だと言いつける。
  - ③ 公娼制度の下での商行為。全く問題ない。→罪悪感なし！

→ 念のため、一面トップで山川出版社攻撃を報じたのが産経新聞です。

あえて、かれらの主張の特徴を述べるなら、

- ① 被害者の証言・告発には、全く耳を傾けることはしない。
- ② 軍国主義（裕仁昭和天皇）時代の、アジアへの加害の歴史的事実に向き合うことはしない。むしろ、美化・翼賛する！
- ③ 総じて、今の政権（権力者）にとって都合の悪いことは、“自虐史観”と責め立て、無きものにする歴史修正主義の立場に立つ。

(4) いずれも、腹の立つ事ばかりですが、どう論破したらよいのでしょうか。

- ① 証拠があるのです。焼却から免れた文書、金学順（被害者側）・中国帰還者連絡会員（加害者側）の証言など、無視出来ない証拠がたくさんに。
- ② なぜ、慰安所は作られたのでしょうか。残された軍の文書から明らかです。ここが、ポイントです。アジア侵略戦争（大東亜戦争）遂行のため、軍部が当時植民地であった朝鮮や台湾、そして中国・占領地の15才から17才までの少女を含む20万人を超える女性を慰安婦として従軍させ（船舶やトラックで）、なんとか軍の規律の体裁をとったのです。

南京大虐殺や三光作戦で知られる極悪非道の婦女子への狼藉に、占領地、とりわけ中国人民は耐えられず、国際社会（主にアメリカ）に訴えたのです。軍として、性病の蔓延なども無視することは出来ず、占領地で“現地調達”は、ままたらなかつたはず。戦争遂行のためです！

(5) 戦後40年もたつて、日本政府は謝罪や賠償を怠り、韓国の被害者からの告発や野党（社会党）からの追求に抗しきれず、当時の官房長官の河野洋平は、政府の機関を動かし、真

相究明の調査を実施、1993年の「河野談話」として、“お詫びと反省の気持ちを表明”、“同じ過ちを決して繰り返さない”と決意したのです。反対運動の成果であり、漸進でした。

ところがです。安倍晋三は、この河野談話を覆すべく、国内外で、日本会議系を総動員し、見直し策動を大胆に展開したのです。議会で多数派を根拠に、思いのままを実行に移し、いくつもの既成事実を重ねてきたのです。

アメリカの下院議会（下院外交委員会）で、河野談話は誤っているとワシントンポストにも全面広告を出し、論陣を張ったのですが、みごとに敗北。下院議会では圧倒的多数で「日本政府に公的な謝罪を求める決議」が採択されたのです。オーストラリア・カナダ・フィリピン・オランダでも同様な謝罪決議が採択されたのです。

日本国内では、2006年の教育基本法の改悪で、「行政は条件整備に限られる」が、法律で何でもできるとしたのです。もちろん愛国心を強制する文言も入ってしまったのです。（公明党の裏切りはあちこちで展開されますが、このときの犯罪的役割は見過ごすことは出来ません。）国家権力からの独立を謳った教基法改悪は、改憲への一里塚だったかも知れません。次々と教育法や教育制度の改悪がすすみ、学習指導要領の拘束力も強化され、教科書検定では、政府見解を強要できる段階まで、教育のファシズム化が進行しているのです。

残念なことに、連合や全労連の指導下で、組合の弱体化に歯止めがかからず、安倍（菅）政権の攻勢に組織的に反撃できず、抗しきれなかったことが大きな要因なのかも知れません。そして、ついに…

新たな教科書攻撃が振り下ろされる危機的事態となったのです。

(6) 「まとめ」です。レポートから、そのまま転記します。

政府見解で教科書の記述まで、権力者（歴史修正主義者）の意のままに換えられるシステム（教育への政治介入の手口）が既成事実化すること。日本会議系の突き上げを悪用し、現在使用中・検定済・これから検定がおこなわれる教科書を時の政府（国家）の独断で変えられるという既成事実をつくったの

です。ここに本件の核心問題があります。その急先鋒が政府・文科省なのです。

近隣諸国条項をもふっとばし、歪んだ虚偽の歴史教育を教師や生徒・児童に注入する国家主義の浸透は、“いつか来た道”（超悲惨な戦争）に戻ります。

日本国憲法・教育基本法で始まった戦後民主主

義が崩壊させられている今、目覚めるべきは私たちなのかも知れません。この度の政府・文科省（菅・萩生田）による、新たな教科書攻撃に現れた日本型ファシズムの抬頭を許さないために、教える私たちが学習・討論を通じて、はねかえして行くこと、これこそが、唯一の近道なのだと思います。 がんばりましょう！



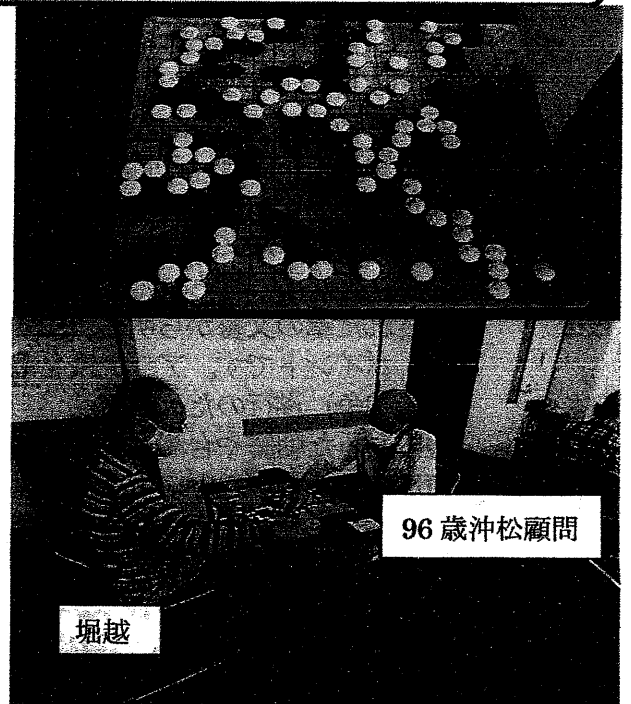
レポート発表 丸山氏



## 埼玉退教 囲碁ダービー 第2回『沖松杯』開催

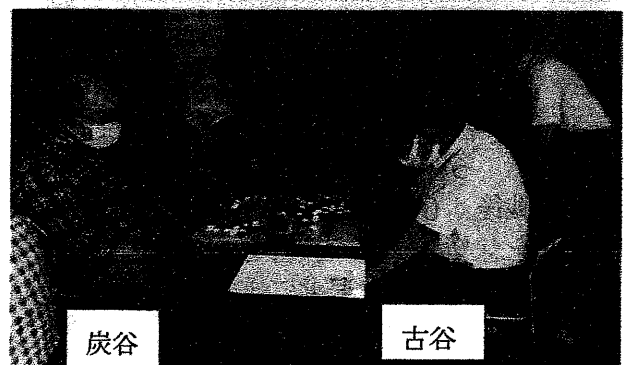


緊急事態宣言解除間もないコロナ禍の中の10月5日、熊谷市中央公民館において、第2回『沖松杯』埼玉退教単独の囲碁大会が11名の参加で行われました。午前10時に対局がスタート。途中、熊谷の「うな重」で英気を養い、午後3時半まで、35局の熱戦が繰り広げられました。いずれも、早碁でなく「熟」碁そのものでした。東郷名人と小野田名人の対局は、ナント、2時間3分の熱闘でした。人を寄せ付けない、普段見せない、真剣そのものの雰囲気の下、熱戦が繰り広げられました。結果は、Bクラス(2段～5段)では、優勝 堀越 正氏、準優勝 沖松 信夫氏 Cクラス(初段以下)の優勝は、丸山 道雄氏でした。高校支部が中心の大会でしたが、来年は人間、比企支部等各支部の皆さんも参戦するよう要請します。



96歳沖松顧問

堀越



炭谷

古谷

「埼玉退教団奉大会」

主催 埼玉退職教職員協議会  
 期日 令和3年(2021年10月5日)  
 会場 蕨本市中央公民館201号室  
 大会期日 10月5日(火) 10時より

第2回汁松杯

★Aクラス(遊戯科)・Bクラス(2級~5級)  
 Cクラス(初級以下)・・・3クラス制です。



堀越

鈴木

上毛新聞への投稿活動

言葉の言い換えに注意

藤江 辰男(埼玉東本庄市・68)

「コロナ禍の自宅療養中の急変死には心が痛む。「自宅療養」とは、一般的には病状が安定したときに病院から出て自宅でのゆっくり静養」という意味だ。だから、「コロナ禍で必要なのは入院できない現状は「自宅療養」でなく「入院拒否」だと書く学者もいる。原稿の「汚染水」はいつから「処理水」といわれるようになったのか。互障りのいい言葉になって、果たして本当に安全になったの

だろか。言葉の言い換えは古今枚挙たいていまがない。戦時中、日本軍が「全滅」したとき、「玉碎」が使われた。国民の戦意を鼓舞し、戦争を美化するために意図された言葉だと戦争体験者から聞いた。言葉は時の為政者にとって都合のいいように言い換えられたとき、失政を覆い、国民に事の本质を覆い隠す善悪となる。

身近な例でも、言い換えはよく聞く。「言いたくないけれど」は「心裏で」や「思っている」が真意であり、「ごまかしの話だよね」は「ごまかしてしゃべっている話だよね」と同義だろう。これらはまたかわいい部類として「ごまかす」としても「国民に不利な話をもたらす言い換えには寛容ではないだろう」。



丸山

柴崎



東郷名人

小野田名人

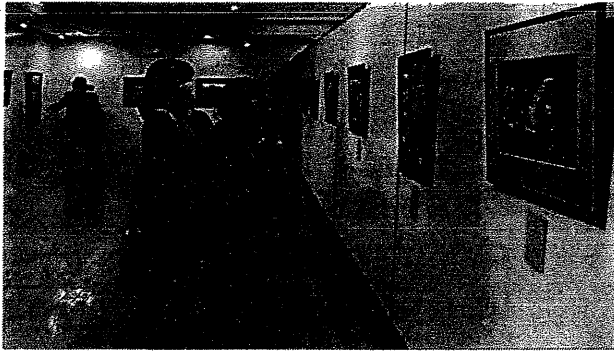
第30回文化展「比企野」報告

喜びがなくては、楽しくなくては続かない

比企支部 文化展委員長 関根 吉昭

1年半も延期していた、記念すべき第30回文化展「比企野」が実施できた(10/20~10/25)。役員全員で、コロナ感染状況や医療逼迫状況を見極め、感染防止対策をした上での取り組みだった。最終実施判断日を9/29の役員会時にしておいたのも幸運だった。

時節柄、来館者は前回（延 623 名）の半分くらいかと予想していたが、延 476 名も来場してくれた。うれしい誤算だった。来館者の静かに、楽しそうにおしゃべりする姿（もちろんマスクをして）が印象的だった。そこには、文化展活動の魅力の一面が現れているように思えた。



文化展活動の趣旨・目的や成果については、「退教だより」に何度か載せられたので、今回は詳しく記すつもりはないが、別の面から書いてみたい。

第 29 回展時に来館者アンケートを実施した。この文化展活動が外からどのように思われているのか知りたかったからだ。次に集計したものを紹介する。

この集計結果から、何を読み取るかは人それぞれだろう。回答者（来館者）は、元教育関係者ではない方々が多くいらっしゃるように思われる。そのような方々からの言葉として読んでみたい。

回答の中には、この活動の課題や限界のようなものも読み取れるが、全体に好評価のように思える。それは、我々としても、励み（喜び）になる。

年々、出品者数や出品点数は、少しずつ減少傾向にあることは否めない。会員数も同じ傾向にある。しかし、この活動は、会員数を増やすことを目的としたものではない。

諸先輩方の英知と努力で 30 年も続けてきた文化展「比企野」の活動は、会員一人一人のセカンドライフの中に次のような‘ときと場’を確かに創り出したいという願いを込めた活動である。

- ・より充実した楽しい日々を
- ・仲間と共に、創造的な、高め合う活動を
- ・新しい思いに向かって挑戦する明日を
- ・交流し合い、つながりの輪を広げる場を

（これらの趣旨は、もちろん文化表現活動に限らず、退教事業の中に広げていける。）

文化展は展示表現という範囲の中での活動ではあるが、前述したように、自分の興味のあるもの、惹かれるもの、大切にしたいものなどを作品にする充実感、発表できる喜び、そして新たな交流が生まれる喜び・楽しさがある。そして、その大前提となるのは、表現の自由が保証されている世を大切にしていこうと思う。

新たな一歩となる第 31 回文化展「比企野」も、「会員の生き生きと生活している姿が伝わる展示」になればいいなと思っている。多くの方々の参加をお待ちしています。

## 第 29 回文化展来館者アンケート集計 2019 会員でない回答者 62 名分を集計した。

(1)文化展「比企野」全般の印象は、次の内、どうですか?をつけて下さい。(複数回答可)

- ①興味深い 53 名 ②まあまあ 7 名 ③つまらない 0 名 ④おもしろい 10 名 ⑤あまり感心しない 0 名  
⑥さすがだと思う所あり 15 名 ⑦その他(昨年より一段とすごい 1 名

(2)心に残る作品がありましたか? (0 をつけて下さい)

- ①数多くあった 25 名 ②いくつかあった 33 名 ③ほとんどなかった 0 名 ※「あった」場合、それはどのようなところですか? (同じ主旨に思えるものはまとめた)

すべて 観るたびに感動 (2 名) 写真には胸に思い溢れ 春には心の静まりを覚えた。目の付け所がいい。よく観察され 新しい発見と記録に残されている。ぱっと見 心引かれるものがある。絵画や彫刻作品のレベルの高さ。写真 16 名 (F 氏、O 氏、S 氏の作。蜘蛛の糸には驚いた 2 名。星の写真 3 名。景色の写真 絵画 15 名 (手描き友禅 7 名 U 氏「ノア」3 名 油絵 2 名 12 名 (万葉仮名。「あなたの価値は変わらない」という詩。W 氏の作。大きな書道作品) 陶芸 7 名 (Y 氏の作、コーヒーカップ 3 木彫 3 名 (O 氏の作) 手工芸 3 名 (七福神) 草木染め 2 名 (出品の仕方に味がある) 篆刻 2 名 (W 氏の作) 絵手紙 2 名 (H 氏の作)

(3)「元教育関係者だなあ」と感じる部分がありましたか?

- ①あった 29 名 ②なかった 9 名 ③分からな 13 名 ※「あった」場合、それはどのような所でしょうか?

まじめなよい作品が多かった。3 名 意欲的、熱心さ。2 名 心のありよう、人としての佇まい。美術の先生、習字の先生はちがうと思った。集中力のある作品。文(書)の内容 構図がいいところ。折々の絵手紙(H 氏の作) 生け花 「ああ、冷たい」(Y 氏の作) (会員の方よりの回答から) 人権を重んじている点。説明が丁寧。

(4)文化展「比企野」について その他のご意見 感想等 ございましたらお聞かせ下さい。

何度もやってほしい、次回も楽しみ、また来たい。11 名 とても素晴らしい作品ばかりで驚いた。4 名 情景がよくわかる説明がよい。3 名 「我らが鼓」のように生きている意味が大事。様々なジャンルがあって面白い。長年の心がこもった、気持ちを出しています。自然や作品への思いが込められている。お花を一つにまとめてあったのでわかりやすかった。豊かなひとときをありがとうございました。(駅に飾るなど)多くの方に見てもらったら(アピール)。3 名 教職関係者だけでなく、参加できればいい。毎度同じような感じで、新鮮さが無い。もっと飛びたい。他の作品も見たい。写真のところで説明がほしかった。絵画が少ないように思える。2 名 写真が多い。

# 多 彩 な 意 見

## ジェンダー平等の組織に

比企支部 藤野 好夫

今年度 比企支部の組織では五役(正 副支部長 事務局長 同次長 事務局員、会計、監事) 14名のうち女性が8名 (57%)となりました。また 地区役員 協力委員 38名中 19名(50%)が女性です。これは「役員は男女同数を目指そう」という たんなる数合わせ的な努力によって生まれたものではありません。比企支部が 30年余にわたって「退職後の毎日の生活をより豊かに生きがいのあるものにする」ための 会員の日常に密着した活動(同好会 文化展 歩け 等)に取り組み その積み重ねの中から結果としてごく自然な流れとして生み出されてきた ものです。

今年は 東京オリンピック パラリンピックとのかかわりの中で日本の「ジェンダー平等」などの問題が大きく取り上げられました。

ジェンダーギャップ指数 男女平等度合 2021年の国際比較で日本は 156か国中 120位 衆議院議員の女性比率は 461人中 47人 (10/31 当選 465人中 45人:編集部)でわずか 10% (9.7%:同)程です。民主的な組織といわれている労働組合の執行部でもまだまだ 男性中心の組織が多いのではないのでしょうか。私たちの埼玉退教の常任委員会をみても 女性はごく僅かです(比企支部からの常任委員は2名とも女性の予定です)。

私たちの比企支部も 発足当初からしばらくの間は 顧問 正副支部長 事務局員 会計の中では副支部長に1名の女性が入っているのみでした。

その中で 先輩の役員の方々には会員が日々の暮らしの中で「今日も楽しかった」「思いに向かって活動できた」と実感することができることを目指して 特に文化活動の組織化と充実 発展のために尽力されてきました。そして 生み出された作品の発表の場 会員の交流の場 学び合いの場としての「文化展」を年一度開催し 多くの会員から喜ばれ期待される ようになり、同好会活動の広がりや組織の拡大へもつながっていきました。

共通の趣味や興味 関心を持つ者どうしが共に作品作りに取り組み「より充実した日々を過ごしたい」との思いに基づく活動には男性 女性による違いは生まれません。

それぞれの作品を生み出す努力への思い 互いの作品のすばらしさの認め合い 学び合いの共有 その人その人のもつ「らしさ」こそもっとも大事にされなければならないことへの気づき 高齢になっても誰もがもつ可能性への確信などなど 多くのことを学び合いました。異なる良さを大切に、自分を見つめ 新たな課題を見だし 明日へのエネルギーを得ることにもなりました。

活動のなかではその人その人が創意工夫し より高い峰をめざし その峰に登ると更に 次の高い峰が見え またそれに向かって懸命に努力をつづけます。そこには性を超えた「ひと」としての生きる姿への共感 共鳴があります そのような中から会員間の繋がりや信頼も深まってきました。組織としての連帯感の高まりもすすみました。

「ジェンダー平等」の組織へと着実な歩みが続けられてきていたのです。



いま世界は「多様性社会」、「共生社会」へと向かっています。すべての人々が「より充実した、心豊かな生活」ができる平和な社会を目指すことにつながる事が大事な事だと思っています。比企支部結成当初の役員の方々によって創りだされてきたこのすばらしい活動。今は先輩役員の方々の卓越した洞察力、先見性と見識への敬意と感謝の念でいっぱいです。また活動に参加し・支え・盛り上げ 基礎を築いて戴いた支部会員の皆様方の大きな力のあったことへの思いも深くしています。(私が退職した年「文化展」は第3回を迎え11の部門に延べ87名が出品されていきました。魅力を感じて私はすぐに退教・写真同好会に入会し活動の仲間に加えていただき、第4回の「文化展」には初出品することができました。

## 取り戻そう生存権 ～今こそ、市民と立憲野党の共闘を～

### 坂戸市議会議員（日政連） 武井 誠

埼玉県西部地区護憲集会で毎日新聞記者の東海林智さんに講演をしていただきます。レジメが届きました。「コロナ禍で生活に困窮しているのは誰か。今の社会構造の中で、憲法で保障されているはずの生存権を脅かされながら、普段はそれが見えにくい状況になっている人々の不安定さが浮き彫りになった。」東海林さんの取材したリアルな現実の一部を要約して紹介します。

#### 【特殊詐欺で逮捕された20代女性のケース】

スーパーの試食販売などの派遣、一人暮らし。緊急事態宣言前ぐらいから、徐々に仕事が無くなり、埼玉県内のアパートの家賃5.4万円が払えなくなる。アパートは、滞納2カ月で追い出しの通告、それでも払えないと、留守の際に鍵を付け替えられ、荷物を運び出される強制立ち退き。

困窮し、仕事を探そうと「高収入」「即金」などでスマホ検索し、「闇の職安」の入り口に。紹介された仕事は特殊詐欺の受け子。犯罪に加担することで得られる「収入」は最も捕まるリスクを背負わされた上での「低賃金」。表の世界でも裏の世界でも搾取される存在。

#### 【高齢者の生活困窮】

安倍政権「誰もが生きがいをもって働く社会に」というお題目。実際は年金だけでは食べていけない高齢者が、生きるために働かねばならない現実。コロナの困窮相談、相談者は70代が最多。70～80代でビルメンテナンスや清掃、マンション管理人などの仕事。社会貢献や能力活用などではなく、生きるために必死で働いている。これらの仕事も、コロナによるオフィス閉鎖などの影響で減少、働いた金をプラスして生活していた高齢者はたちまち生活に困窮。取材したある高齢者は「葬式代まで食べてしまった。情けない」と泣いた。

#### 【リモートワークの対象ではない非正規】

流通や飲食を含め、人と対面するような仕事のほとんどは非正規。正社員はリモートワークに変わる中、毎日職場に通う。いったん休業などになれば、当初は多くの非正規は雇い止め（100万人超え＝正社員含む）、休業補償なしの休業を強要された。非正規はコロナの危険性にさらされながらの業務を強いられ、かつそれに対する危険手当はないどころか、20年度は最賃据え置き（21年度は28円）となった。さらに、雇い止め、休業補償における正社員との差別。危機に際して非正規労働の不安定さ、脆弱さが改めて浮き彫りになった。

## 【個人請負という働き方】

この働き方もコロナ下で広がった。自分の時間を自分が好きな時に好きなように利用して働くことができるというふれこみ。リモートワークの広がり、巣ごもり需要の拡大などで一気に働く人が増えている。企業も「副業の自由化」を打ち出し、会社以外で副業することを許容する。

しかし「個人請負」で働く人は、その名の通り自営業者であり労働者ではない。会社は自営業者と民＝民の契約。雇用ではないので仕事上のすべての責任は自営業者に。配達中に交通事故にあっても労災補償はない。何時間働いても最低賃金保障はない。例えば、ウーバーの配達員は雨など悪天候の日が儲かる（外に出たくない客の注文増）が、それでも1日配達して2万前後。好天の日は16時間待機して5000円などざらにある。時給312円で都内の最低賃金の3分の1。もしコロナに罹患しても、すべて個人事業主の責任。労働者として保護されることがない「働く人」である。

ウーバー以外にも、ヤクルトレディ、IT作業を請け負う通称「IT土方」、保険勧誘員、ポスティング、ガスメーター検針、レンタカー回収……さらに、正社員採用後、経理や営業事務などの仕事を次々と個人請負させるシステムも始まっている。背景には、安倍政権が一貫して雇用の流動化を進めてきたことがある。

「底の抜けた」社会の現実。私たち社民党の行っている「なんでも困りごと相談」でも、不当に苦しい生活を強いられる社会的弱者の方たちの深刻な相談が増えています。私たちは力を合わせて、このような、すべての人に保障されなければならないはずの生存権が踏みじられる社会を変えていかねばなりません。

## （追伸）

衆院選で「改憲」勢力が3分の2を超えてしまったことに強い危機感を覚えます。しかし、メディアの多くは「敗北は立憲野党共闘の失敗」と報じていますが、私はそうは思いません。野党共闘で具体的に闘った小選挙区では敗北していません。私の居住する選挙区を含め、比例で復活した議員も少なくありません。「改憲」勢力はそういう結果を分析すればこそ、共闘が定着することへの恐怖で、市民と立憲野党との共闘批判をやり続けるしかない、それは小選挙区議席減と接戦区の拡大が恐ろしいからに他なりません。相手に恐れられることこそが、私たちのやらなければならないことです。逆に今こそ、市民と立憲野党との共闘が求められていると思います。

# 戦争を語り継ぐ

## 父親の戦場 V

高校支部 山田正美

### 「支那じゃあ、あたりまえだ」

父の「第二三特設機関砲中隊」は昭和一九年六月から敗戦後の捕虜生活も含め約一年半、フィリピンにいたことになる。当然、その間現地住民との間に様々な接触があった。第五分隊長滝嶋氏の書き残した戦記『いなご豆』によれば、やはり日本軍とフィリピン人住民との間は支配者と被支配者の関係であった。まだ米軍上陸前の頃、こんな逸話が紹介されている。滝嶋伍長は同輩の伍長と一緒にデゴス地区のパリキ公園に気晴らしに出かけた。ちょうど日曜日で公園では闘鶏が開催され屋台が出ており、現地の住民たちで賑わっていたからだ。同僚の伍長は屋台で七、八十本もある一連のバナナを買った。しかしかなり重たいし、兵舎まで道のりがある。そこで伍長は通りがかりの男に「おい、お前！」と呼び止め、いきなり彼の肩に重いバナナをどっかりと担がせた。「俺と一緒に来い！」日本語で命じて運ばせたのである。なんだかわからぬままに気の毒なその男はバナナを担がされて兵舎の近くまで運ばされた。すると伍長は「もういい、帰れ」と言って、バナナをおろした。次の瞬間、伍長は男の頬を平手打ちで殴ったのである。なぜ伍長が殴った

のか、まったくわからない。運んでくれてありがとう、と言う代わりに殴った、としか言いようがない。殴られた男は怒って大きな声で騒ぎ始め、周辺の住民が「何事か」と、集まってきた。まずいことになった、と思った滝嶋氏はその場を取りなすために、現地語のビサイヤ語で謝って、何とか事なきをえた。あとから、滝嶋氏は伍長をたしなめたら、こういう返事が返ってきた。「なあに、支那じゃあ、こんなことはあたりまえだ。」

中国戦線で戦ってきた古兵たちが南方に配属されると、中国で自分たちがやってきたことが、つい出てしまうのだ。人を人とも見ず、支配者然としてふるまう兵たち。初年兵いじめや甘い上官にはことごとく逆らうなど、中国でたたかった古兵はそのように見られていたという。

### 脱落していく兵士たち

米軍の空襲が始まった十一月以降、海岸近くの住民たちは逃げてしまい、農場や集落はもぬけのからになってしまった。日本兵にとってはこれ幸いである。放置された鶏、卵、豚などの家畜や作物が取り放題だった。しかし食料が潤沢だったのはそれまでだった。昭和二十年四月の米軍上陸後は、圧倒的な米軍

の権威である中村和（当時の埼玉県製紙工業指導所長）らと協議を行い、製品規格を定めた。伊藤は、気球内で水素ガスが膨張する際の内圧に耐えられるよう、縦横に強度があり、コンニャク糊の支持体に適した和紙の開発が必要だと考えた。そのため、流し漉き・溜め漉きどちらがふさわしいか工法から見直し、薄さ・目方・原料処理・漉き方に至るまで詳細に指示したマニュアルを1943（昭和18）年秋頃に完成させる。」（明治大学平和教育登戸研究所資料館 第5回企画展風船爆弾に利用された「紙」 塚本百合子）

### 戦時科学技術動員体制

科学者や技術者には、個人研究ではなく時局・戦局に対応した共同研究が求められた。このフ号作戦がそのような戦時科学技術動員体制による共同研究であったかは今の私には分からない。研究費は戦争に協力すれば支給される体制だったことは事実である。戦時科学技術動員体制を研究する大淀昇一先生の指摘を載せておきたい。

「内閣直属の科学技術行政の中核機関として技術院を設置し、……過去半世紀に亘る我国科学技術の海外模倣依存主義を一掃し従来の自由主義的技術隠蔽策を排撃し、科学技術のすべてを国家総力戦体制に再編成することによって、新に大東亜共栄圏の資源や環境に適合した、所謂日本的科学技術を建設することが、この新体制要項に明示せられたのである。」（『日本における戦時科学技術動員体制の淵源と展開』大淀昇一著 すずさわ書店）

## 今、76年前の母の日記を読む

### 本庄 秋谷博一

2019年（令和元）10月17日に母が亡くなった。満95歳、コロナウイルス感染症問題の発生する直前だったため、最後まで一緒にいられた。その後、遺品の整理等を経て、もう2年が経とうとしている。その間、一番大変だったのは、洋服・和服・装飾品・書物等をゴミとして捨てることなく、親戚やユニ

セフに寄付して、ほぼ終了した。その後、たんすの奥に段ボールの箱が数個あったので、開封してみると、母が子供の頃から90歳過ぎまで書き続けた80年分の日記と結婚してからの家計簿が数十冊出てきた。膨大な量なので、戦前、終戦、戦後、結婚、私の誕生等の部分をまず読んだ。一気に70数年前へタイムスリップさせられた。

母は父親の仕事の関係で、実家は九州の佐賀県、生まれは四国の高知県。大正13年生まれなので、終戦の時21歳でした。学徒動員で軍需工場で働いた友人を何人も広島・長崎の原爆の投下で亡くした。

（日記より）

『1945年5月18日 軍事講演』

土地をとられたから、空襲にあったから負けたというのではない。国民の一人でも、負けたと思った時に負けたのである。必勝の信念をもって戦わなければならない。戦局に一喜一憂することなく、勝利に向かって必死の覚悟で進まなければならない。

『1945年8月15日 終戦』

一昨日から、ラヂオは入らず、新聞は来ない。変だなと思っていた時、本日、正午に天皇陛下御自ら玉音を以て重大なる御放送を遊ばされるとの通知が入る。いよいよ我々一億火の玉になって・・・（省略）敗戦の原因は私たちが全力を出していなかったからか。申し訳ない。家に帰る元気もなくボーッとしている。

その日の日記には、当日の新聞が添付してあった。そして、その日の裏面のは「人類滅亡を狙う・原子爆弾・2万トン爆弾よりも強大な爆破力・製作過程を米大統領トルーマンが発表」という記事があった。ほとんどの日本人が知らなかった爆弾の正体を書いてあった。

その後の日記は日に日に、大きな不満へ変

化していった。「今までみんなで協力してきたのに、人々は食べ物の取り合い、姉は親同士が決めた、顔も見たこともない人と結婚させられる、可哀想。この戦争は何だったのか。女は道具なのか。・・・」と続いていく。

終戦の翌年、フィリピンのミンダナオ島に出征し玉砕し、戦死したとされていた私の叔父（父の弟）がジャングルに逃げ込み、数人で生き延びて、捕虜となり帰還した。その叔父の泣きながらの戦争の話は母の日記の

内容の何倍、何百倍もの過酷な内容だった。

現在、この時期でも世界各地で紛争が続いている。私は終戦5年後に生まれた「戦争を知らない子供たち」の一人です。これから、日本そして世界に「戦争の愚かさをきちんと知る、戦争を知らない子供たち」が増えていく平和な時代になることを願うばかりである。そして、現在流行しているコロナウィルス感染症が早く沈静化することを祈るばかりです。

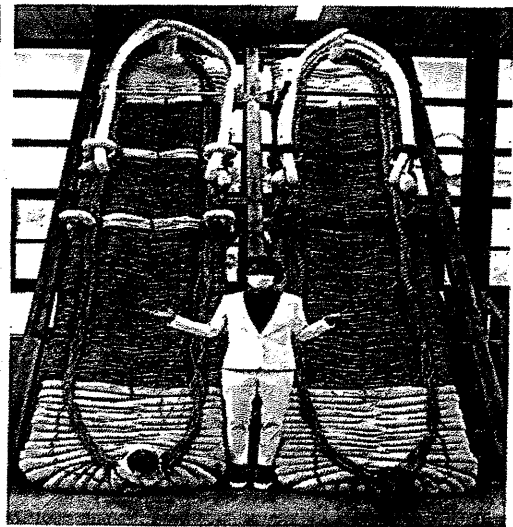
## 退教加入に際して 児玉支部 鈴木 俊美

この3月再任用2年目を終え、本庄南中学校を最後に現場を完全退職しました。現場を離れてみて、本当に忙しいところに居たのだなあ実感する日々です。「働き方改革」が叫ばれている昨今ですが、現場ではもっと“働ける職場をつくっていかなくてはならなかったと、辞めてみて反省する日々です。

今の私はというと趣味の書道をライフワークに、師範取得をめざしています。その合間にコーラスやら庭の草むしり、そしてほんの少しだけ塾のお手伝いをしています。また、児玉教育会館での電話番もしています。

電話番と言っても教育会館には、あまり電話もなく、訪れる人もいません。退教の皆さんお時間のある時には、是非お立ち寄りください。これからの人生、10年、20年…あるのでしょうか？何はともあれ、健康第一に、第二の人生を楽しめる毎日でありたいと思っています。これからは退教の皆さんのお仲間の一人として、よろしく願いいたします。

## 2021年古賀ちかけ活動紹介



随時 web サイトなどで活動報告を行ってまいります。

## 編集後記

コロナ禍の中、この1年間皆さんはいかがお過ごしでしたか？日退教も我が埼玉退教もほとんど休止状態でした。現在コロナは落ち着いてきているようですが、我が国でもお隣韓国のようにブレークスルーによる感染が拡大しなければ良いのですが、また新しいコロナ（オミクロン）が南アフリカ発で世界中に流行りだしたとのこと、心配ですね。来年こそ退教の活動が思うようにできますようにと、祈る思いです。

岸田首相のもとで衆議院選挙が行われましたが自民党にお灸をすえるつもり野党が振るわず、政府与党にひと息つけさせる結果になってしまいましたね。野党共闘の政策が有権者にとりわけ若者達にあまり魅力や大きな期待感を感じさせなかったのではないのでしょうか？現在の世の中の問題よりも若者達の将来に大きくかかわる問題を取り上げてはと思いませんか？例えば・・・

### 日本の借金の問題

今回の選挙のばらまき公約の実現のためにまたまた多量の国債を発行した結果日本人（約1億2千万人）一人あたり800万円以上の借金になり、これをどうやって解消するつもりでしょうか？みんな若者やその子供達が背負うことになるのでは？

### 気候変動の問題

地球の温暖化をなんとしても防ぐために脱炭素社会を目指して世界中が真剣に取り組んでいる中、日本はその取り組みが主要国の中で最も遅れているようです。気候変動の仕組みの解明の研究で日本人の真鍋淑郎さんが名誉あるノーベル賞受賞者になる一方、岸田首相はCOP21（気候変動枠組締結国会議）で日本の脱炭素の取り組みに対して「化石賞」という不名誉な賞を受けました。若者達の将来はどんな気候変動とその影響が待ち受けているのでしょうか？今すぐ、大人達が真剣になって対策を取り組まなければ間に合わなくなる課題ですね。

### 資源の問題

自動車会社に勤めている息子が自動車の生産が思うように出来ないと嘆いていました。また、給湯器が壊れ新しく買い換えようとしたところいつ納入されるかわからないと困っていました。半導体不足で自動車はじめあらゆる電化製品等は半導体を使っているので生産が次第に出来なくなっていくようです。日本では半導体の生産はしていないので輸入に頼っていたためです。半導体だけでなく日本は食料はじめ石油等多くの資源、製品を輸入に頼っています。もし、将来世界で何か大きな変動、戦争等が起きたら日本国民は自給自足でやっていけるのでしょうか？それを考えると一刻も早くその対策を講じなければならぬでしょう。来年の参議員選挙でこれらの将来の問題を若者達に熱く訴えてみてはと思いました。今の政治家は将来の問題よりも現実の問題の方が票を取りやすいと思っているようです。それともそんな問題は今の自分には関係ないと思っているのでしょうか？

事務局次長

炭谷 忠（高校）